

西国巡礼慈悲の道

西国第二十番 西山 善峯寺

観音様との善きご縁

山主 掃部光昭

当山のご本尊十一面千手千眼観世音菩薩、一般的に千手観音と呼ばれる観音様のお姿はちよつと変わつておられます。というのもその名のとおり、私たち人間にはない数え切れないほどのたくさんの手と目があるからです。ひよつとしたら、このお姿に接して不気味に思う人がおられるかもしれせん。しかし観音様は、この世の私たちを観、悲しみの音を聞き、何とかして

迷える者を救いたいと願つておられる優しいお方で、あの手この手と様々な手を使つて私たちを苦悩の海から掬い取ろうとなさるのです。少しの手だけではとても間に合いません。千本も救いの手をさしのべようと思つておられるのが観音様なのです。ところが観音様のお思いに不信の念をもつて、差しのべて下さる観音様の手に疑いを持ち、自分の手を差し出そうとしない

のが凡夫の私たちです。観音様が私たちに一番欲しておられるのは観音様の慈悲を信じて疑わない「素直な心」ではないでしょうか。お釈迦様は弟子に道端に落ちていた臭いボロ縄と良い香りの紙切れを嗅がせて「本来、縄も紙もその匂いはほとんどないものです。しかし縄はおそらく魚でもしぱり、紙は良い香でも包んでいたのでしょう。縁とはかくの如きものです。人もまた悪しき縁に会つてはなりません。人は良き友に接し、良き場所を選ぶべきなのです」と説かれました。観音様の救いと良いご縁を授かる場所は、観音霊場のみではなく、自室も清浄にして観音様のお姿を祀れ

ば良き場所になるはずす。花山法皇御遠忌ご開帳は結願しましたが、ご開帳参拝のみならず平素より観音様をお参りして善い行いを積み重ねることが大切です。当山では観音様とご縁がつながら喜びを感じていただき、観音様と同じように自分が「人々のために何ができるか」を落ち着いて考える良き場所としていただきたいのです。



観音風光

ご本尊千手観音様は月に一度ご開帳をしております。このご開帳のよき日にご参詣いただきたく存じます。自然あふれる三万坪の境内は七代目小川治兵衛作の回遊式庭園にて四季折々の花を楽しむことができ京都市内を一望できます。境内を歩くと自然の中で生かされていく広い世界の中で自分が唯一無二であることが実感させられます。

主な年中行事

一月二日 大般若会
 五月三・四日 よしみね筍焚き
 六月第三日曜日 桂昌院忌
 八月十五日 施餓鬼会
 十二月三十一日 除夜の鐘
 毎月第二日曜日 御本尊開扉

●四季のみどり

4月中旬(桜)
 5月(ひらどつつじ・新緑)
 6月初旬(さつき)
 6月中旬～7月上旬(あじさい)
 8月(たかさごゆり)
 9月～10月(秋明菊)
 11月中旬～12月上旬(もみじ)
 12月より なんてん、さざんか、椿、梅あり

御本尊／千手観世音菩薩 開基／源算上人

西国第二十番

西山 善峯寺(西山宮門跡)

善峯観音宗

野をもすぎ 山路にわかふ 雨の空

よしみねよりも 晴るる夕立

〒610-1133 京都市西京区大原野小塩町1372

TEL 075-331-0020/FAX 075-332-8342 <http://www.yoshiminedera.com>

拝観時間 午前8時～午後5時閉門

仏教用語一口解説

不妄語とは

「嘘を言ってはならない。」という意味。原因は自分にあるのに、人に責任をなすりつける。嘘をついて逃げようとするのは姑息な行為です。嘘をついている人は、本当の事がいつ暴かれるかと常にビクビクしていて、心に落ち着きを持ってません。そして、自分の周りから信じられる仲間も居なくなります。「いつも正直であること」が大切です。信用のある人の周りには、たくさんの友達の輪が広がっていくものなのです。

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。